

Calendar

休館日
コレクション展ガイドツアー

*詳しい日程・内容についてはお問い合わせください。
*予告なく変更になる場合があります。
*最新情報は随時SNSでお知らせします。

23
4

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

▲企画展「安藤正子 ゆくかは」(7/8～)
▲こどもミュージアム2023(7/8～)

8

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

▲特別展「アイヌ工芸展
「AINU ART - モレウのうた」(9/16～)

10

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

▲開館記念日(11/3)無料観覧デー
▲全館休館(11/20～1/10)

12

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

▲全館休館(11/20～1/10)

2

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

▲美術の学校

3

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

▲全館休館(11/20～1/10)

■教育普及プログラムのご紹介

□コレクション展ガイドツアー

特別展・企画展会期中および5月・11月をのぞく毎月第2木曜日と5月3日(祝)・11月3日(祝)午後2時から、学芸員がコレクション展(常設展)の解説を行います。
※参加無料(要観覧券)、事前申込不要

□せつこっくらぶ

こども向けのワークショップなどを行います。

□美術の学校

アーティストや美術史の専門家などを講師に招き、ワークショップ形式や講義形式の美術教室を開催します。



一宮市三岸節子記念美術館
公式キャラクター セつちゃん

■ご利用案内

□開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

□観覧料 コレクション展(常設展)

一般320円 高大生210円 中学生以下無料

特別展・企画展 その都度定めます。チラシ等をご覧ください。

※20名以上の団体は2割引

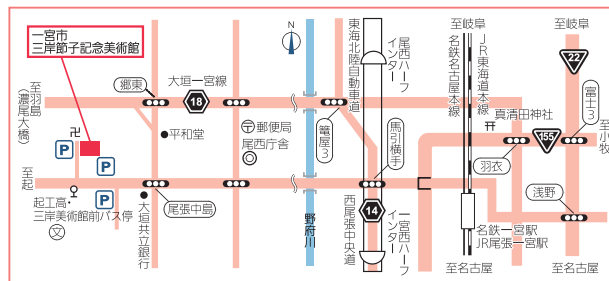
※一宮市内在住の満65歳以上で住所・年齢を確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方、身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(マイロID可、付添人1人を含む)は無料

常設展示年間観覧券(コレクション展年間パスポート)

一般640円 高大生420円

コレクション展(常設展)にかぎり、何度でも観覧いただくことができます。(発行日から1年有効)

□交通案内 公共交通機関 JR尾張一宮駅・名鉄一宮駅下車、名鉄バスターミナル②番のりば「起(おこし)」行で約15分、「起工高・三岸美術館前」バス停下車、徒歩1分



自動車利用

大阪方面▷名神高速道路 岐阜羽島ICより約15分
東京方面▷名神高速道路經由 東海北陸自動車道 一宮西ICより約10分

北陸方面▷東海北陸自動車道尾西ICより約10分
*無料駐車場完備(42台)

一宮市三岸節子記念美術館
<https://s-migishi.com>

〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
TEL 0586-63-2892 / FAX 0586-63-2893

@s.migishi.museum

@s.migishi.museum

@s_migishi_muse

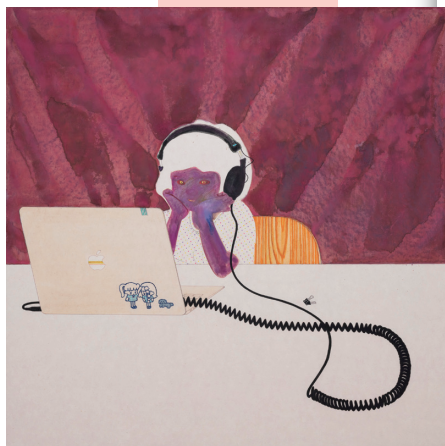
(花・果実) (部分) 1932年 ©MIGISHI▶

ICHINOMIYA CITY MEMORIAL ART MUSEUM OF SETSUKO MIGISHI

MUSEUM CALENDAR

2023.4-2024.3

一宮市三岸節子記念美術館
<https://s-migishi.com>



安藤正子「ムービータイム」
木製パネルに雲肌麻紙、アクリル絵具、水彩絵具、鉛筆、水彩色鉛筆、パステル
100cm×100cm 2021 ©Masako Ando photo by Tamotsu Kido

7月8日(土)▶9月3日(日)

企画展

「安藤正子展 ゆくかは」

近年、移住した愛知県瀬戸市で生み出された陶レリーフの作品で、これまでの油彩画や鉛筆画での表現から大きく展開し、新境地を開いた安藤正子。油彩画、鉛筆画、ドローイング、陶作品、インスタレーション等、手法を変化させながらも一貫して「絵」を作り続けてきた歩みを読み解きます。

関連行事／アーティストトーク、ワークショップ など

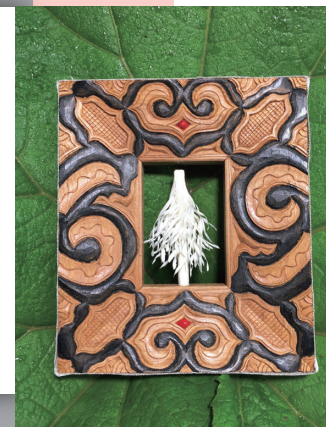
9月16日(土)▶11月19日(日)

特別展

アイヌ工芸品展「AINU ARTーモレウのうた」

アイヌ文様の特徴のひとつであるモレウ(渦巻き文様)をキーワードに、現代のアイヌアートとともに、先人たちが遺した木彫品や衣服を概観し、多様性とデザイン性に富んだ造形力に注目します。古きものに新しさを発見するほか、現代作家の作品の中にも伝統が息づいていることがわかるでしょう。

関連行事／講演会、ワークショップ など



藤戸康平(折り)2016年、作家蔵

7月8日(土)▶9月3日(日)

こどもミュージアム 2023

「おばけのマールと ほしにねがいを」

2021年に開催した絵本原画展で一宮でも人気者になった、札幌のご当地絵本「おばけのマール」。星空を見上げながら、マールといっしょにねがいごとをしましょう。新作絵本も発売。

関連行事／ペーパークラフト、館内ラリー、絵本の読み聞かせ など



新作絵本「おばけのマールとほしぞらのフルコース」より
©Rei Nakai / NAKANISHI PUBLISHING CO., LTD

全館休館

※11月20日(月)～2024年1月10日(水)の期間、改修工事のため全館休館します。

2023年4月25日(火)▶6月30日(金)

マチエールは語る。

軽妙な筆致で仕上げられた室内画や、苦悶する想いを封じ込めたかのような厚塗りの心象風景、ヨーロッパの歴史を感じさせる重厚な絵の具の層で描かれた風景画など、節子作品に見られる様々なマチエールの魅力を伝えます。



三岸節子(火の山にて飛ぶ鳥(軽井沢山荘にて))1960年 ©MIGISHI

7月8日(土)▶9月3日(日)

太陽に祈りを

1964年に神奈川県大磯町にアトリエを構えた節子は、そこから望む輝く太陽と海に触発され、風景画家へと歩み向けます。この地でアトリエを「太陽の家」、自身を「太陽の画家」と呼び、エネルギーな数々の名作を生み出しました。本展では後にヨーロッパで風景画家として活躍する契機となった、太陽を描いた新収蔵作品を中心に紹介します。



三岸節子(太陽)1964年 ©MIGISHI

9月16日(土)▶11月19日(日)

モチーフを求めて

1954年の初渡欧をきっかけに、自分が日本人であることを再認識した節子は、帰国後に埴輪や古い壺などをモチーフにした作品を発表しました。その後、本格的に風景画に取り組みうと再渡欧し、フランス・イタリア・スペインなどヨーロッパ各地をまわって、節子なりのモチーフ探しの旅を続けました。造形美を追求した静物画や、重厚な色彩で描かれた風景画を中心に紹介します。



三岸節子(アルカディアの赤い屋根(ガズスにて))1988年 ©MIGISHI

2024年1月11日(木)▶4月14日(日)

花より花らしく

画業初期から描かれてきた花。節子は晩年もアトリエに花を飾り、庭では花を育て、その花の姿をキャンバスに捉えようとしてきました。花の生命を自ら育むことで、花の実態をつかみ、描くことを試みしました。晩年の大作《さいたさいたさくらがさいた》をはじめ、代表作である花の作品を紹介します。



三岸節子(さいたさいたさくらがさいた)1998年 ©MIGISHI